

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 平成19年 6月14日

【評価実施概要】

事業所番号	4677000129
法人名	社会福祉法人三峰会
事業所名	グループホーム回生園
所在地	鹿児島県曾於郡大崎町菱田3063番地 (電話) 099-477-0372
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島県鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成19年6月14日

【情報提供票より】19年 5月 9日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 7日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 2 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	6.0

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

(4)利用者の概要(5月9日 現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	89 歳	最低 79 歳	最高 101 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	甲斐崎医院(内科医)	上床歯科医院
---------	------------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の一角に位置し、特別養護老人ホームやデイサービスセンターと併設して建てられた設立3年目のホームである。天井が高くゆったりとした建物は、事務室や台所からリビングや玄関が見渡せ、職員は利用者と一緒に仕事をしながら、あるいは語り合いながら他の利用者が目に入るようになっている。また、根気強く個々の利用者の楽しみ事や得意なことを見つけ出し、絵画やピアノ演奏・お客様の接待・料理・毎日の入浴・「くもん学習療法」等いきいきとした生活につなげている。運営者は職員の人材育成にも力を入れており、施設内外の研修の参加に積極的に職員の研修意欲も高く、サービスの質の向上がさらに期待できるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の外部評価結果については、特に改善する項目があがっていない。結果についてはグループホーム会議で職員に周知している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価項目については職員全員に周知し、職員による検討を行ったうえで管理者が意見を集約する事により、評価の活用や方法について全職員が理解するように努め、ペランダの利用等取り組み始めるものは取り組みが始まっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は5回、利用者・家族・町福祉課・地域包括支援センター・自治会長・前グループホーム管理者・運営者・事務長・管理者・職員等が参加して開催している。参加者は運営推進会議の意義や外部評価について確認し、グループホームの状況についての報告や検討項目について話し合い、活発な意見交換や協力体制の確認を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会は年3回の開催で、ほとんどの家族が参加し意見も活発に出ている。苦情相談受け担当者・第三者委員・行政窓口を玄関に明記し、入居の際に詳しく説明を行い、苦情があがればいつでも対応できる仕組みがある。ただし、開設より現在まで重大な苦情の訴えがなく、相談記録の記入はない。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小・中学校の行事への参加、ボランティアの受け入れ、保育園児の訪問、道の駅展示会への出展、大衆浴場利用などを通して、利用者が地域で暮らすための基盤作りを行っている。また、共に暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を担っていくような努力は始まったばかりである。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当グループホームの理念である「温かく、やさしく」は、併設の特別養護老人ホームでも掲げられている理念だが、グループホーム設立時に職員全員で話し合い、同じ理念を使用する事を決めた。わかりやすく、浸透した理念であるが、地域との関係性を見据えた理念はまだない。	○	今後、再度職員で話し合い、グループホーム独自のもの、また、地域に根ざしたものを作りたいとの意向がある。「地域の中でその人らしく生活する事を支えるケア」のイメージを持った独自の理念が、全職員の話し合いで作る事を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は食堂に掲示し、いつでも目に付くようになっている。また、日常的にわかりやすい言葉や状況に応じた言葉で管理者や職員同士で確認し、利用者との生活に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小・中学校の行事への参加、ボランティアの受け入れ、保育園児の訪問、道の駅展示会への出展、大衆浴場利用などを通して、利用者が地域で暮らすための基盤作りを行っている。また、共に暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を担っていくような努力は始まったばかりである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価項目については職員全員に周知し、職員による検討を行ったうえで管理者が意見を集約する事により、評価の活用や方法について全職員が理解するように努めている。外部評価の最後には運営者と事務長を含めた話し合いを行い、評価に積極的に取り組み、サービスの質の確保に活かしていこうとする姿勢がみえる。また、昨年度の外部評価結果についてはグループホーム会議で職員に周知している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者・家族・町福祉課・地域包括支援センター・自治会長・前グループホーム管理者・運営者・事務長・管理者・職員等が参加して5回開催している。参加者は運営推進会議の意義や外部評価について確認し、グループホームの状況についての報告や検討項目について話し合い、活発な意見交換や協力体制の確認を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者とは月に1～2回は出向き、連携をとっている。事務手続きを行う時に相談をしたり、研修会の資料を提供してもらったりしながら、グループホームについて理解や支援をしてもらえるよう関係作りを行っている。また、社会福祉協議会とも連携をとり、複雑な課題に対しても協力して解決に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している便り等により、個人別に最近の生活状況や心身の状況・病院受診状況・行事計画・金銭管理について良く分かるように報告している。また、利用者の健康状態に不安があるときには速やかに家族へ連絡している。家族の訪問時には日常の様子を機会をとらえて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年3回の開催で、ほとんどの家族が参加し意見も活発に出ている。苦情相談受け担当者・第三者委員・行政窓口を玄関に明記し、入居の際に詳しく説明を行い、苦情があがればいつでも対応できる仕組みがある。ただし、開設より現在まで重大な苦情の訴えがなく、相談記録の記入はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1年間での職員の異動は殆んどなく、利用者や職員の信頼関係を築いている。また、新しい職員には新任研修プランを組み、利用者等への声掛けの仕方や尊厳を守る大切さ等を教育すると共に、利用者や家族が不安を持たないように配慮している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の質の確保・向上に向けた育成が不可欠であることを理解し、研修には特に力を入れている。法人内での研修やグループホーム独自の研修を、年間計画を立てて毎月行い、職員の経験等によって段階に応じた内容が受けられるような配慮をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は質の確保のために、他法人の同業者との交流が不可欠であることを認識しており、常勤・非常勤共に他のグループホームの見学や研修会での意見交換等交流を図り、サービスの質の向上に努めている。また、勤務の調整や参加費等の補助により、職員が研修に参加しやすいよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の方には管理者や計画作成担当者が訪問し、利用者や家族と十分に話しをし、日常生活などを聞いたり、入居時にはなじみの家具を持ち込んだりして、出来るだけ入居前に近い雰囲気生活を開始するようにしている。医療的な処置が必要な方には、前もって職員が研修を受けたり勉強会をしたりして受け入れの準備を行い、利用者や家族が安心して入居できるような支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援するのみでなく利用者にも家事に加わってもらい、お互いに協力し合って生活している。また、ちまき等伝統の味や作り方を教えてもらうことで、利用者を尊敬し一緒に過ごし、学び、支えあう関係を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に入居予定者や家族と話し合い、一日の過ごし方・楽しみにしている事・特技・本人と家族の希望などを聞き取って、入居後の生活に活かしている。また、利用者がどう暮らしたいかを望んでいるのか、今、何がしたいかなど常に語りかけたアンケートをとったりしながら、利用者の思いを伝えてもらい、共に楽しめるように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の意向や家族からの情報より、具体的な個別の介護計画を作成している。また、グループホーム会議や業務連絡簿からも職員の気づきや考えを吸い上げ、ケアプランの共有化を図っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のグループホーム会議で、介護計画について変更の必要性を含めて検討している。それ以外でも、変更の必要があるときにはそのつど計画を作成している。また、短期目標の期間に応じて、少なくとも3ヶ月に1回は目標毎に評価を行い記録している。支援経過記録に利用者の様子等について記載があるが、毎月のモニタリングの記載は明確ではない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の人々と共にちまき作りをし、地域の人がグループホームになじめるような機会を持ったり、受診時、グループホーム職員による通院介助を行い、利用者が安心して暮らせるように柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医についての希望を確認し、なじみの医師による診療が継続できるよう、医師との関係作りを心がけている。また、脳外科等専門医の受診が望ましい利用者は、専門医を受診できるように配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、併設施設でも利用している「重度化した場合における対応の指針」に基づいて、状態が急変したときにどう対応するかの説明を行い、方針を共有できるようにしている。また、当グループホームには3名の看護師を配置し医療の支援を図っている。しかし、入居時あるいは入居後に話し合った、重度化した場合や終末期の方針についての個々の記録は確認できていない。	○	終末期等の方針を立てるには、状況変化に応じた繰り返しの話し合いと段階的な合意が必要である。また、話し合った結果は記録し、利用者や家族・職員間で共有する必要がある。現在グループホーム独自の「看取りに関する指針」を作成中であり、運営者や職員の研修の意欲も高いことから、話し合いながらの指針の作成等を通し、利用者や家族の大切な時期に意向を最大に尊重したケアを行うことができるよう、情報の共有が望まれる。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けには全職員が注意し、ていねいな声かけやプライバシーを損ねる事のない声かけを日々確認しあっている。また、常に理念の確認を行い徹底を図っている。記録や情報については漏洩のないよう気を配っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居時の情報収集を参考に、起床や朝食・入浴時間など利用者のペースを守っている。また、常に利用者の希望を聞くように気をつけ、気持ちを引き出すことを大切に支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者は会話を楽しみながら一緒に食事をしている。また、食事は併設施設と同じ献立だが、利用者の希望を聞きながら施設の献立に反映させたり、セレクトメニューとして選ぶこともできる。食事の準備や後片付けは利用者も参加し、職員の見守りや声掛けの中、張り合いや心身の力の維持や向上につながっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日は決めてなく毎日入浴できるが、基本的には午後からの入浴である。入浴をゆっくり楽しめるように、また、利用者が不安にならないように一人ひとり30分前後の時間をかけて支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時の情報収集や日々の会話などから、利用者の生活歴や力を活かした活動を探し、絵画やピアノを楽しんだり、新聞を取りに行ってもらったり、買い物に出かけたり、洗濯物をたたんだりなど、役割・楽しみごとを行う場面作りをしている。また、あらたに分かった活力等は業務日誌や介護日誌に記入し、全職員が共有できるように工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	管理者は、外出する事が利用者にとって大切なことであると認識をし、買い物に誘ったりドライブに出かける機会を作り、生活の刺激にしたり気分転換を図ったりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関はいつも開放し自由に入出りできる。玄関は事務室や台所・リビングから見えるように設計され、見守りを行いやすくなっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「災害対策マニュアル」に基づいて併設の特別養護老人ホームと合同で、あるいはグループホーム独自で避難訓練を行っており、地域の協力も要請している。災害時の食料や飲み水等の物品は特別養護老人ホームに準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状態や飲水量は、一人ひとり記録し細かく把握できている。また、水分については出来るだけ促したり、お茶の時間を設け楽しみながら、一日の水分量が確保できるように工夫している。また、管理栄養士により個人々に合わせた食事形態や献立の希望も把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く、天井が高く、採光や換気も十分に居心地の良い環境を保っている。また、広いベランダはお茶を飲んだり気分転換に役立っている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、備え付けの洗面台は利用者の洗面や身だしなみ等に利用している。また、使い慣れた家具や冷蔵庫・小物などを配置したり、家族の写真を飾るなど、安心して居心地良く過ごせるような工夫をしている。		